



観光で潤う経済大国へ  
訪日外国人が  
必要とする  
サービスを考える

企画者：損害保険ジャパン株式会社

# 1. ワークショップの概要・目的

## 概要

- 日本の訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルスの流行により2020年から2022年にかけて激減しました。その後、2024年には2003年以降最多の3,687万人が訪れていますが、全世界で見ると観光客到着数は世界15位という状況です。
- 日本のGDPは、609.3兆円に対し、国際観光収入は8.1兆円でした（2024年）。GDPに占める割合は1.3%であり、G7の平均値4%と比較すると低水準ではありますが、2023年には国際観光収入で世界9位にランクインしています。
- つまり、日本のGDPを更に伸ばしていくためには、訪日外国人旅行者数を増やす取組と、観光分野における稼ぐ力（付加価値の創造）が不可欠であり、本ワークショップでは訪日外国人が必要とするサービスを考えていただきます。

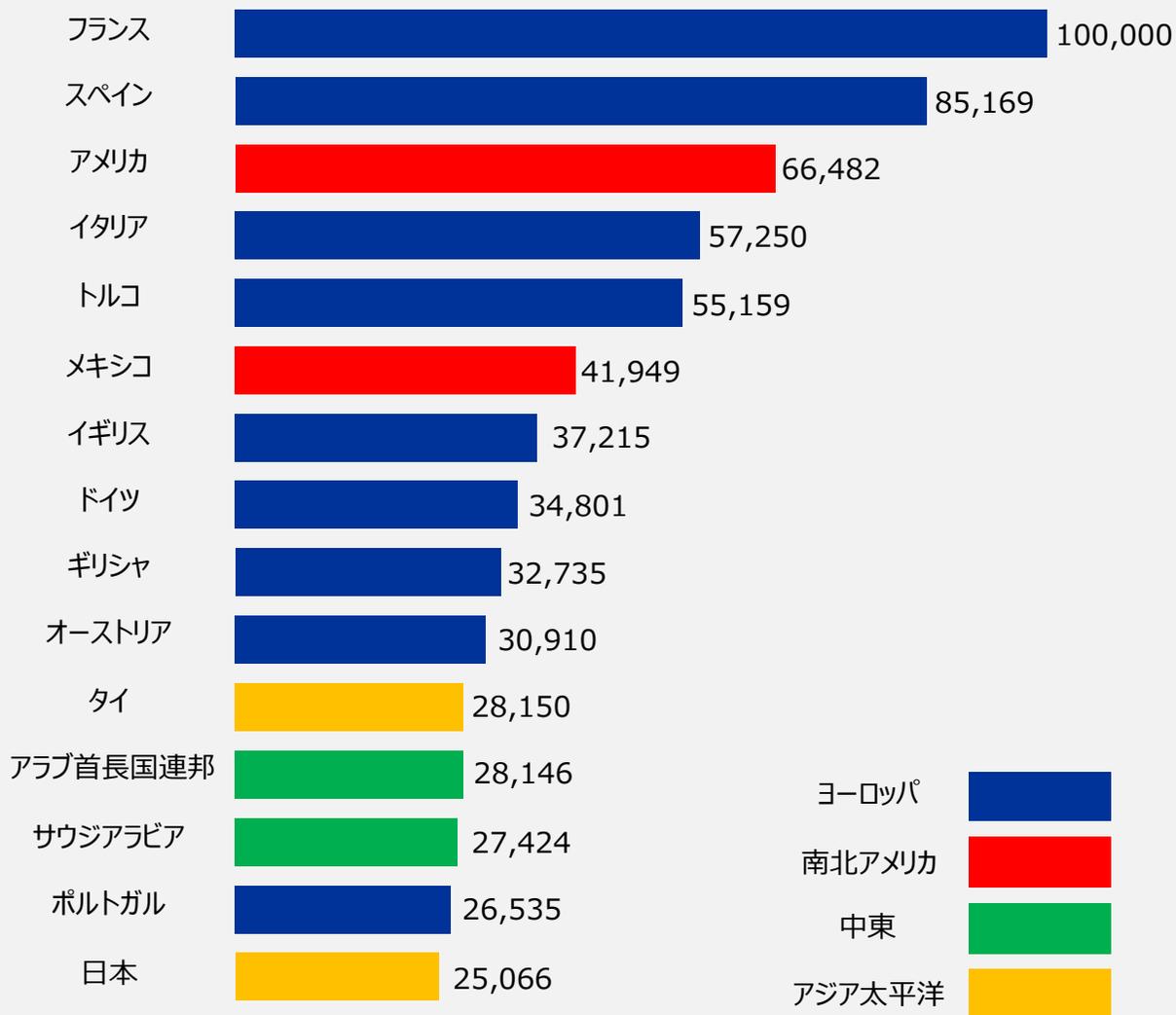
## 目的

- 観光大国である日本の現状を、世界の国際観光トレンドと日本の観光トレンドから学んでいただく。
- 日本人とは異なる価値観、文化を保有する訪日外国人の目線で未だ無いサービスを考えることで、独創的なデザイン思考を身に付けていただく。

## 2.サービスを考えるにあたってのデータ

### 観光客到着数Top15

2023年 (単位:千人)



➤ 観光客到着数の上位10か国には、アジア太平洋地域と中東がランクインしていない。

➤ 中でもヨーロッパ地域は上位10か国の内80%を占めており、観光地として非常に人気を集めている。

## 2.サービスを考えるにあたってのデータ

### 国際観光収入Top10

2023年 (単位: USD millions)

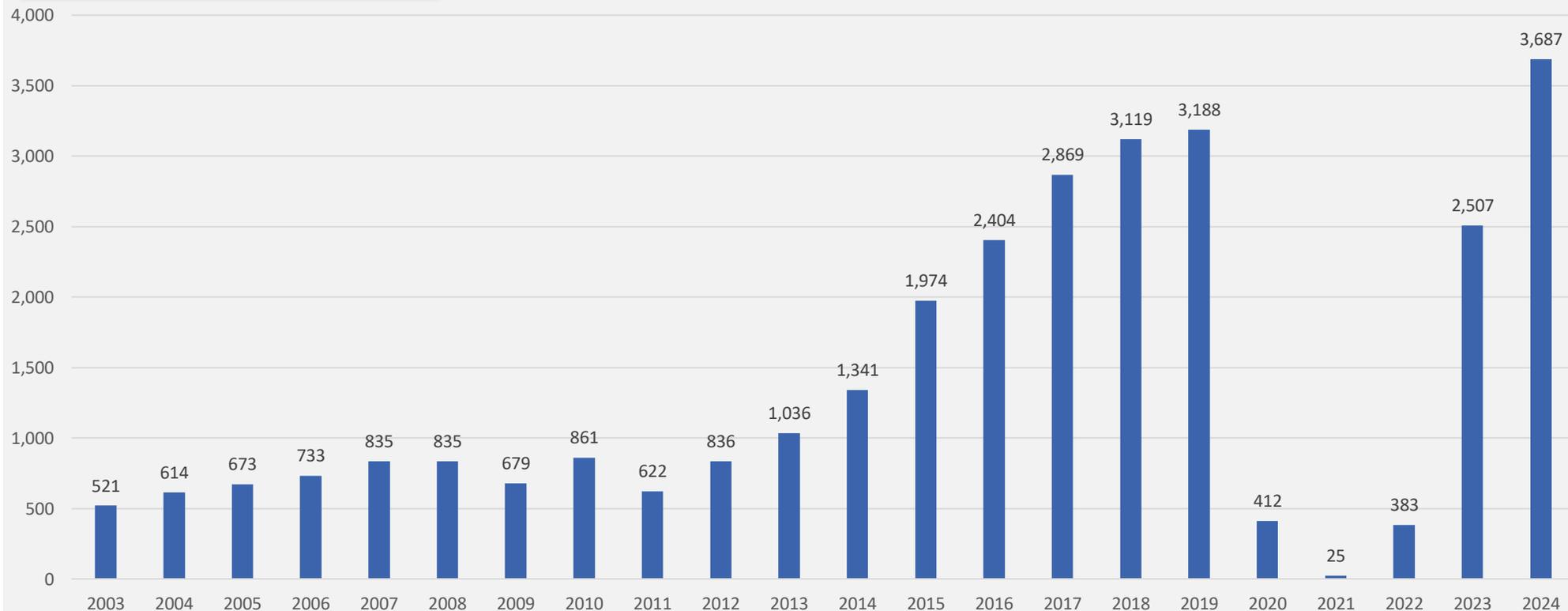


- 観光客到着数は15位であるが、国際観光収入は9位。つまり、訪日外国人1人当たりが使う観光費が大きいことが分かる。
- 一方で、名目GDP世界ランキングを見ると、日本は第4位（2023年）。GDPに占める割合は1.3%であり、G7の平均値4%と比較すると低水準。

## 2. サービスを考えるにあたってのデータ

訪日外国人旅行者数推移

(単位：万人)

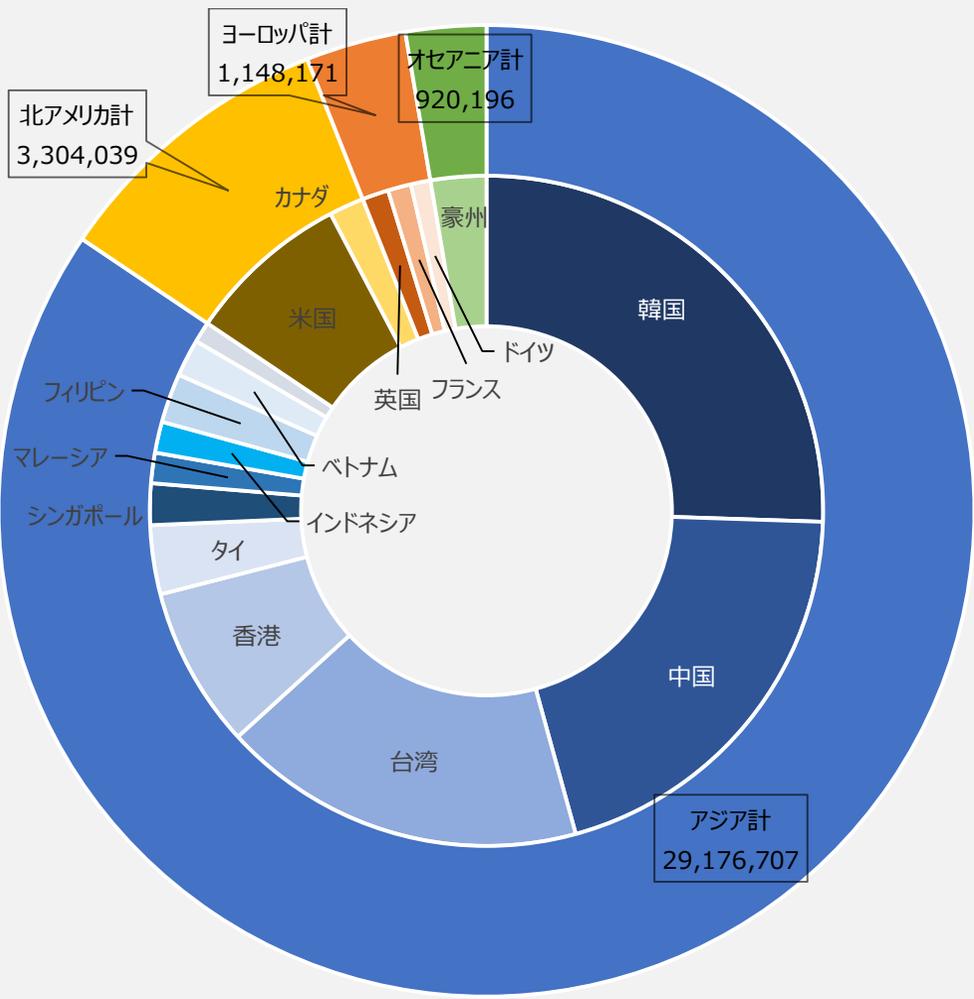


- 訪日外国人旅行者数は、2003年のビジットジャパン事業開始以降、概ね右肩上がり。
- 2020年から2022年は新型コロナウイルスの流行により大幅減となっているが、2024年には過去最高値になっている。
- 石破総理大臣は、2030年に訪日外国人旅行者数を6,000万人に増やす目標の達成に向けて、閣僚に指示を出している。

# 2.サービスを考えるにあたってのデータ

国籍別訪日外国人数

(単位：人)



地域・国	国籍別人数
アジア計	29,176,707
韓国	8,817,765
中国	6,981,342
台湾	6,044,316
香港	2,683,391
タイ	1,148,848
シンガポール	691,226
マレーシア	506,883
インドネシア	517,651
フィリピン	818,659
ベトナム	621,173
その他アジア	345,453
北アメリカ計	3,304,039
米国	2,724,594
カナダ	579,445
ヨーロッパ計	1,148,171
英国	437,230
フランス	385,071
ドイツ	325,870
オセアニア計	920,196
豪州	920,196

- 地域別ではアジア地域からの訪日外国人が最も多い。
- 国別では韓国・中国・台湾からの渡航者が多く、英語以外の多言語での対応が必要。

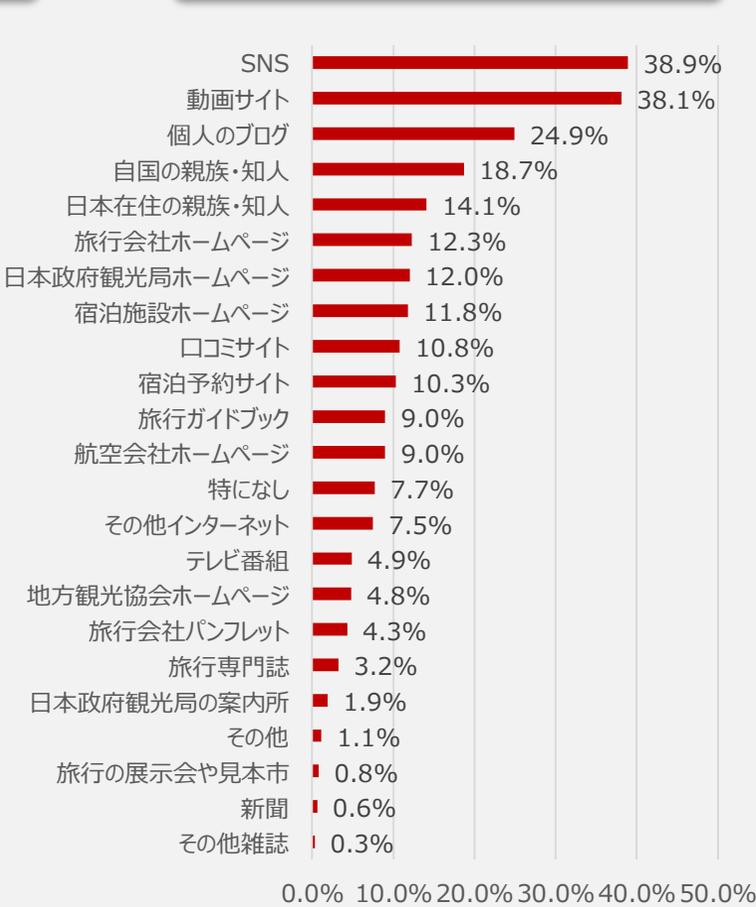
参照：日本政府観光局

# 2.サービスを考えるにあたってのデータ

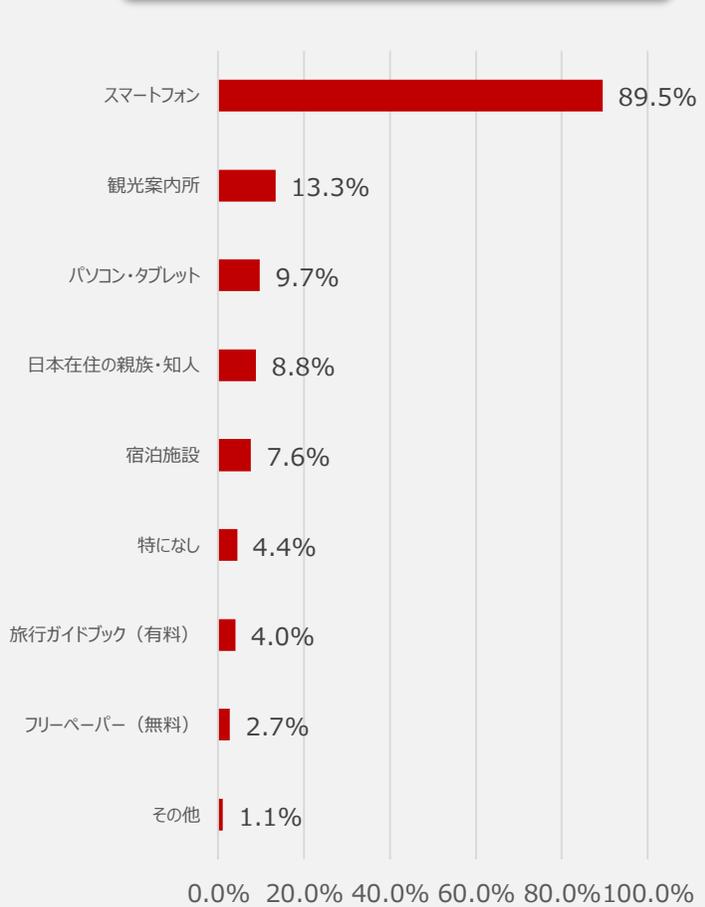
利用した決済方法



出発前に役立った情報源



日本滞在中に役立った情報源



➤ 滞在中に利用した決済手段は現金が最も多く、次にクレジットカードであった。  
 ➤ 出発前、滞在中ともにインターネットを使用した情報収集が多数を占めており、紙媒体よりも電子媒体による情報開示が重要であることが分かる。

参照：国土交通省観光庁『訪日外国人の消費動向』2024年